

トンボ類について

| No | 名 称 | 生 活 史 | 産卵場所 | 産卵方式 | 備 考 |
|----|---------|--|--------------|-------------------------------|------------|
| 1 | アキアカネ | 夏（7～8月）に一旦低地から姿を消し、 標高 1,000mを超える山岳地帯 まで長距離を移動し、前生殖期間を過ごす。秋雨前線の通過を契機に大群を成して山を降り、稲刈りの終わった 水田の水溜り のような場所で産卵する。雌雄が繋がったまま、水面の上で上下に飛翔しながら雌が水面や水際の泥を腹部先端で繰り返し叩き、その度に数個ずつ産み落とす。乾いた土にも産卵する。 | 湿泥・砂泥地 | 打泥産卵型 | |
| 2 | シオカラトンボ | 標高の低い場所に生息し、開放水面を好む。自然の池沼や流れの緩い小河川のほか、 水田 や公園の池、市街地でも見かける。成熟した雄は縄張りを占有し、 草上などに静止して警戒 する。交尾は草や地面の上で行われ、雄の警護下で雌が単独で産卵する。飛翔しながら尾端を水に打ちつけることによって水中に産卵。 開放水面 が必要 | 広い明るい開水面 | 打水産卵型 | 別名 ムギワラトンボ |
| 3 | オニヤンマ | 日本最大のトンボで、生体の複眼は鮮やかな緑色。体の各所に黄色の模様。水のきれいな小川の周辺や森林のはずれなど日陰の多い涼しい場所によく見られる。雄は流れの一定区域をパトロールし、雌に出会うと捕まえて交尾を行う。産卵場所は巨大な体に似合わず 小規模で緩やかに水が流れ、入れ替わる小水域 である。雌は産卵場所を見つけると、体を立てて飛びながら、ストンと体を落下させるようにして水際ぎりぎりの浅い水底の柔らかい泥や砂の中に産卵する。成虫になるまでの期間は5年、雌は雄よりも大きい。 | | 押泥産卵型 | |
| 4 | ギンヤンマ | 湖、池、田など流れがないか、もしくはごく緩い淡水域に生息する。昼間に水域の上空を飛び回る。雌は腹部先端にある産卵管を 植物の組織内 に突き刺し、1粒ずつ産卵する。 浮葉植物 の繁茂した 開放的な池沼地 。 | 浮葉・沈水植物 | 植物組織内産卵型 (マコモ、ガマ等の抽水植物や朽木) | |
| 5 | ベッコウトンボ | 繁殖にはヨシやガマなどの挺水植物が繁茂している池沼・湿地と周辺の豊かな植生が不可欠である。成虫個体のほとんどが生まれ育った水域に留まり、移出しないのも個体数減少の一因である。交尾後の雌は生い茂る挺水植物の中に潜り込み、浅い水面に打水産卵する。 | ヨシの間などの狭い開水面 | 打水産卵型 | 絶滅危惧 I 類 |

| | | | | | |
|----|-----------|--|------------------|----------|---------------|
| 6 | チョウトンボ | 体は細くて短く、羽が幅広い変わった体形のトンボ。チョウのようにひらひらと飛ぶ。平地～丘陵地の植生豊かな池沼を好む。 | | 打水産卵型 | |
| 7 | ハッチョウトンボ | 日本一小さなトンボとして知られ、世界的にも最小の部類に属する。平地から丘陵地・低産地にかけての水が滲出している湿地や湿原、休耕田などに生息しているが、時には尾瀬ヶ原のような高地の湿原でも見られる。いずれも日当たりがよく、ミズゴケ類やモウセンゴケなどが生育し、ごく浅い水域がひろがっているような環境を好む。 | 付帯湿地 | 打水産卵型 | |
| 8 | オオアオイトトンボ | 周囲に木立のある池や沼に発生し、水面に突き出た低木の枝に、雄と雌が連結して産卵する。 | 植物組織内の水面に張り出した木本 | 植物組織内産卵型 | |
| 9 | ムカシトンボ | 幼虫は山地の源流域にすむ。左右の複眼は離れており、ぶら下がって休む。草木に止まる時も翅を閉じて止まることが多い。山間部の水のきれいな渓流域に生息する。成虫が発生するのは4月-6月頃で、渓流域を飛び回る。交尾の終わったメスは単独で川岸の植物の茎の中に産卵する。孵化した幼虫は前幼虫で薄い皮をかぶっている。前幼虫は茎から落ちたあと、川までピョンピョンと跳ねていき、水にたどり着いたあとに最初の脱皮をし、水中生活を始める。幼虫は渓流域の石につかまって生活するが、幼虫の期間は5年とも7年ともいわれ、トンボの中でも特に期間が長い。さらに羽化前の1ヶ月ほどは、溪流の中ではなく、川岸の湿った落ち葉の下で過ごす。 | 苔類に産卵 | 植物組織内産卵型 | |
| 10 | ウスバキトンボ | 水辺から遠く離れて飛び回るので、都市部でも目にする機会が多い。日中はほとんどの個体が飛び回っており、草木に止まって休むことは少ない。交尾したメスは単独で水田などに向かい、水面を腹の先で叩くように産卵する。産卵先は水田だけでなく、都市部の大きな水たまりや屋外プールなどにも産卵。日本で発生する個体群は、まず南日本で発生し、世代交代を繰り返しながら、季節の移ろいとともにより日本を北上してゆく。 | | 打水産卵型 | 別名、精霊とんぼ、盆とんぼ |